

挑戦しつづければ、次に繋がる

自分らしさと 自分に出来ること

小松崎さんは、知人の紹介で「みのゝれ」に足を運ぶようになり、そこで出会ったのが「みのんぱ編集局」だ。家に閉じこもって3人の子育てをしていた主婦が、取材をして沢山の人と出会うことが出来、「おみた Magazine」という広報紙を紹介して、自分の思いが伝えられることに、すごくやりがいを感じた。

「小美玉市民の日企画実行委員」も務めた小松崎さんは震災後、「これまで必死にならざるを得なかったことが、無くなってしまった。」とすごく落ち込んだ。地震の後、家族を守って多くの必死だったが、落ち着きが出てきた時、ふっと市内の3つの文化センターが頭に浮かんだ。すぐに得意のパウンドケーキを焼いて、見に行ったら。それまでたまっていた、不安や悲しみを打ち明けたところ「被災地に行つて援助を手伝ったりすることが出来る人もいるが、出来ない人でも必ず必要となる時があるから、それまでエネルギーを蓄えて置けば良いのでは？これから小美玉市にも避難してくる方もいるのでここで被災者の方たちを元気づけていこうよ。」と言われたという。小松崎さんは今まで張り詰めていた物がプツリと切れ、涙が溢れてしまった。そして、「これから沢山のパウンドケーキを焼いて、沢山の人たちに会い、そして沢山の愛を届けていきたいです。」と力強く話してくれた。

現在、生涯学習センターコスモスプロジェクト委員でも活躍している。今年度はより多くの住民の方に来てもらおうと「コスモス カフェ ウィンウィン」を企画。「この企画は、幼稚園の子を持つお母さん達が対象。自分の時間少ない方のために、託児所を設けお母さんたちが色々学ぶ所です。」と小松崎さんは話す。

5月15日(日)には、生涯学習センターコスモスロビーコンサートとして「JUST LIVE〜うたのチカラ」と題して、みのゝれ住民劇団演劇ファミリアMYUの太田剛さん・新井良和さんによるライブが行われる。小松崎さんにとってみのゝれは「“どうせ”を取ってくれた場所！ “どうせ”主婦だからを、主婦“だけ” “こんなことも出来るんだよ！”と教えてくれた。前向きになったし、色々なことに挑戦してみようって思えた。ここは夢を与えてくれて、夢を実現させてくれるところなんです。」と可愛らしい笑顔で、生き生きと語る姿が印象的だった。

(藤田佐知子)



川中子在住。「子どもたち、夫の支えがあるからこそ今の自分があるんだと思います。」と語る小松崎さん

みのゝれ支援隊 「みのんぱ編集局」
コスモスプロジェクト委員会

小松崎 由美子 さん
こ まつ ぎき ゆ み こ

みのゝれと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ
No.46

このたびの東日本大震災で被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。余震が続き落ち着かない日々を過ごしているなかで、春を迎えました。不安だった心も、柔らかなピンクに染まる桜の花や、黄色に光るタンポポの花たちのおかげで、癒されたことでしょう。今回は、みのゝれ支援隊「みのんぱ編集局」や、小美玉市生涯学習センター「コスモスプロジェクト」委員等と、幅広く活躍されている小松崎由美子さんを取材する。